

令和5年産 水稻栽培資料



目次

※赤字は変更のあった箇所、
マーカー部は資材の基準量が掲載されています。

項目	ページ番号
○昨年からの変更点&講習会資料の見方	P 3
○令和4年産水稻の概況	P 4
○水稻栽培ポイント	
▶種子消毒～催芽 塩水選・温湯消毒・薬剤消毒・催芽 ▶種まき 実施のポイント・育苗培土 ▶育苗～移植 育苗時の注意点・移植時の注意点・基肥施肥基準 ▶育苗時の病害虫防除薬剤一覧	P 5
▶中干し・穂肥 中干しの効果・穂肥時期の管理・穂肥施肥基準 幼穂の剥き方 ▶出穂期・収穫 出穂期の管理・収穫前の管理・台風・大雨対策について	P 6
▶土づくり対策 有機物の鋤込み・大豆・麦後の施肥 水稻栽培に必要な要素一覧・土壌改良剤一覧	P 7
▶農薬使用について 農薬使用において、特に注意すべきこと ラベル表示(使用基準)の遵守義務 ▶薬剤希釈倍率表	P 8
▶除草剤一覧 ▶本田防除剤使用基準	P 9

項目	ページ番号
○水稻雑草チェックシート	
▶初中期一発除草剤で取りこぼした雑草について	P10
○水稻病害虫防除ポイント	
▶スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) ぬかゼリー・タニシトラップの作り方	P11
▶苗立枯病 ▶いもち病 ▶紋枯病 ▶内穎褐変病	P12
▶カメムシ類 ▶ウンカ類	P13
▶コブノメイガ ▶水稻害虫 ▶基幹防除を行いましょう	P14
○関係機関連絡先等	P15

昨年からの変更点

- ・『基幹防除を行いましょう』・カメムシ類『イネカメムシに注意しましょう』の項目を新たに掲載しました。
- ・ジョーカー剤（シラフルオフェン剤）の製造終了に伴い、該当成分の配合の農薬（MR. ジョーカー粉剤DL・キラップジョーカーフロアブル等）の記載を削除しました。※すでに該当薬剤を購入されている場合でも、使用期限内であれば使用可能です。
- ・その他軽微な修正

講習会資料の見方

苗の長さが4～5cmになったら、被覆資材をはずす。

苗の長さが13cm前後・第3葉が展開し始めたら移植時期。

水やりは午前中に1回、培土の乾き具合によっては夕方もう一度かける。

株間18cm
(坪当たり約60株)

移植は一株当たり2～3本を目安に、株間を十分開けて行う。移植後は浅水管理を行う。

育苗～移植

○育苗時の注意点

- ・太陽シートでの育苗中はシート表面に水が溜まらないよう注意する。また、苗が4～5cmになったら撤去する。
- ・育苗期間が20日以上になると、苗いもちの発生率が高くなるので注意する。
- ・生育不良や葉色が落ちた場合は、水10ℓに対して硫酸30gを溶かし、1箱当たり500mlを目安に追肥する。
- ・苗立枯病・苗いもちの発生には十分注意する。

○移植時の注意点

- ・徒長苗は、活着や初期生育が悪くなるので注意する。
- ・登熟期間の高温を避けるため、移植を適期に行う。
- 夢つくし 6月1日～5日頃
- 元気つくし 6月20日～25日頃
- ・移植後は3～5日を目安に除草剤を散布する。⇒P.6
- ・補植用の置き苗は、いもち病の発生元となるので、移植後7～10日を目安に除去する。
- ・移植後はタニシの動きに注意する。ジャンボタニシ対策 ⇒P.8

基 肥 施 肥 基 準					
肥料名	一般肥料(10a当たり)		元肥一発肥料(10a当たり)		
	バスト444 (14-14-14)	新スーパーくん1号 (10-6-6)	IAコート2000 100日タイプ (20-10-10)	IAコート2000 100+120日タイプ (20-10-10)	有機IAコート256 (12-5-6)
夢つくし	3.0～3.5kg 【側条：30kg】	4.0kg 【側条：35kg】	3.5kg 【側条：30kg】		6.0kg
元気つくし	3.5kg 【側条：30kg】			3.5～4.0kg 【側条：35kg】	
ヒヨクモチ	4.5kg 【側条：40kg】			5.5kg 【側条：50kg】	

タイトル

一目で記事の内容がわかるようになっており、確認したい項目を探しやすくなっています。

ポイント①

それぞれのトピックの基本的な注意点や防除のポイント、防除薬剤が記載されています。

図解&ポイント②

図解による説明や、病害虫の特徴・注意点が記載されています。

令和4年産水稻の概況

気象概況

4月～6月中旬の気温は、5月初旬に冷え込みがみられたものの、概ね平年並み～高い状況で推移した。梅雨入りは6月11日で梅雨明けは7月22日であったが、6月下旬～8月上旬にかけて降雨が少なく高温乾燥状態が続き、一部で水不足となった。8月中旬以降まとまった降雨がみられ、水不足は解消されたが、9月中旬に台風14号が直撃した。9月下旬以降の気温は、平年並み～高く推移した。4月以降の日照時間は、平年に比べ概ね長く推移している。(右図)

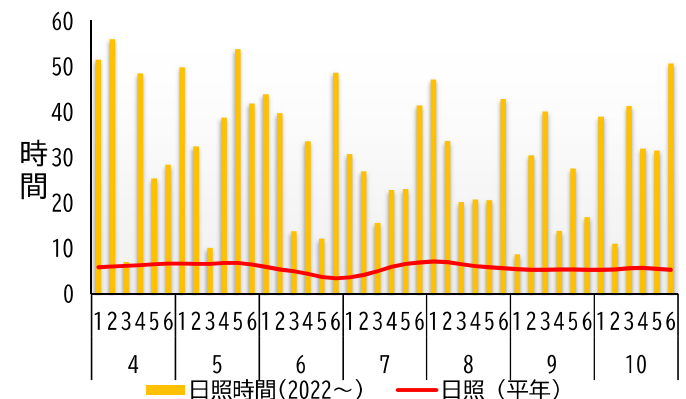
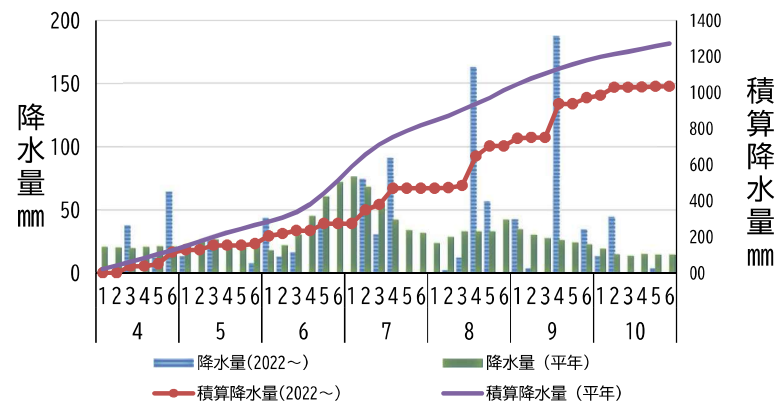
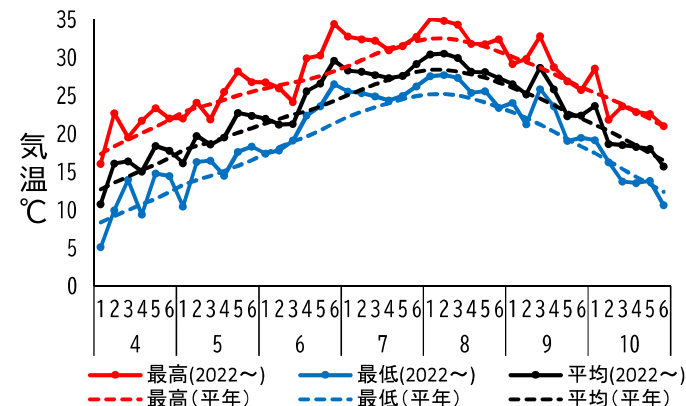
生育概況

〇夢つくし

6月から8月にかけて高温乾燥条件で初期生育が進み、草丈は高く茎数は多く推移したが、水不足のほ場では生育が抑制されたほか、除草剤の効果が劣り、雑草の発生が多かった。出穂期・成熟期はやや早く、8月下旬から収穫が行われた。台風の影響は比較的少なく収量は平年並みからやや多いと見られる。病害虫については高温による紋枯病の発生が多く、一部でいもち病の発生が見られたほか、カメムシ類の発生が多く、適期防除を逃した圃場で品質低下を招いた。品質については、カメムシ類による斑点米のほか、高温障害による心白・腹白が目立ったが、等級は2等中心となった。

〇元気つくし

6月中旬以降に移植したものは、7月の高温多照により順調に生育した。出穂期は平年並みからやや早く、元気つくしは9月下旬から収穫が行われた。9月中旬に台風14号が直撃し、倒伏や葉傷み、籾ずれなどが広くみられた。病害虫については夢つくし同様高温による紋枯病の発生が多く、一部でいもち病の発生が見られたほか、カメムシ類の発生が多く、適期防除を逃した圃場で品質低下を招いた。品質については、カメムシ類による斑点米のほか、高温障害による心白・腹白が目立ったが、等級は1等中心となったが、例年に比べ斑点米による等級落ちが多かった。



▲気温(上)降水量(中)日照時間(下)のグラフ
【八幡アメダス】



▲イネカメムシ



▲イネカメムシによる被害粒
基部に被害が集中している。
色彩選別機により除去しにくい。



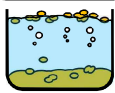
▲いもち病
(ずり込み症状)



▲紋枯病
(停滞型)

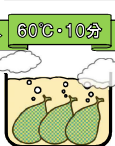
令和5年度 水稲栽培ポイント

塩水選



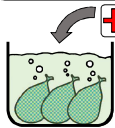
- 比重はうるち1.13、もち1.08で行う。
- 浮いた籾は除去し、沈んだ籾を使用する。
- 塩水選後は流水でよく洗い、**1時間以内**に次の作業に入る。

温湯消毒



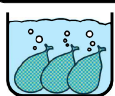
- 60℃のお湯で10分間消毒する。**
- 消毒袋には籾を入れすぎないようにする。(7～10kg)
- 一度にたくさん入れるとお湯の温度が下がって消毒効果が落ちるため、2～3袋にとどめる。
- 温度の上げすぎに注意する。途中の足し湯も避ける。
- 消毒中は定期的にゆすったり、もんだりして中までしっかり温度を伝える。
- 消毒後は冷水で袋の内部まで十分冷やし、催芽に入る。

薬剤消毒



- スミチオン、テクリドC、ベンレート[®]の3種混合の薬液に**24時間**浸漬して消毒を行う。
- 消毒時は袋をよくゆすり、内部まで十分浸透させる。
- 浸漬後はできるだけ乾燥させてから催芽に入る。

催芽



- 消毒後は4～5日ぐらい水につけ、**はとむね状態**にする。
【積算温度100℃：水温20℃で5日間(100℃)】
- 1日1回水を入れ替える。水を入れ替える際、袋の上下を入れ替える。
- 水の量は、種子：水が1：2になるようにする。

種子消毒～催芽

○塩水選の比重

種別	比重	食塩	硫酸
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
	1.10	1.42kg	1.92kg
もち	1.08	1.11kg	1.46kg
	1.06	0.90kg	1.10kg

(水10ℓに対して)

○種子消毒剤

薬剤名	倍率	適用病害虫
テクリドCフロアブル	200倍	ばか苗病・もみ枯細菌病 いもち病・苗立枯細菌病
スミチオン乳剤	1000倍	シンガレンセンチュウ
ベンレート水和剤	500～1000倍	いもち病

(いずれも24時間浸漬)

○催芽の目安



種まき

○実施のポイント

- ・播種前の床土には十分水を含ませ、覆土後、発芽するまで灌水しない。
- ・箱の中で籾の偏りがないように、まんべんなく均一に播種する。

○コラム

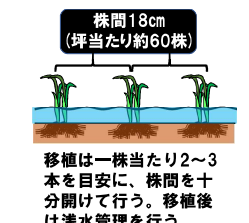
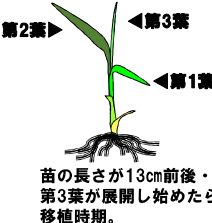
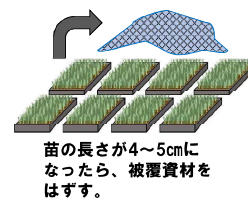
- ☆薄まき・厚まきのメリット・デメリット…

薄まき	
メリット	・苗の生育が良くなり、移植後も根張りや活着がよくなる。 ・太く丈夫な苗になる。
デメリット	・生育の仕方・移植時の株間設定によっては欠株が発生する。

厚まき	
メリット	・田植時の欠株が少ない。
デメリット	・気候によっては苗いもちやムレ苗が発生する。 ・培土の養分を摂り合うため、生育が鈍る。 ・箱剤使用の場合、移植時に1株当たりの薬剤量が減る。

育苗培土

資材名	N-P-K 【苗箱1箱換算】	特徴・注意点
こめパワーマット	0.8g・0.8g・0.8g	・けい酸分を主成分としたロックウール ・移植時の苗箱の重さは慣行土の50% ・播種前に十分水を含ませること
清新培土	0.8g・0.8g・0.8g	・原料は黒土、赤色土、シラス ・粒形にややバラつきあり
みのりエース	1.0g・1.0g・1.0g	・原料は黒ボク、あか土、まさ土、たいせき土、くん炭 ・長く育苗したい人向け



肥料名	一般肥料(10a当たり)		元肥一発肥料(10a当たり)		
	ベスト444 (14-14-14)	新スーパーくん1号 (10-6-6)	IAJ-2000 100タイプ (20-10-10)	IAJ-2000 100+120タイプ (20-10-10)	有機IAJ-256 (12-5-6)
夢つくし	30～35kg 【側条：30kg】	40kg 【側条：35kg】	35kg 【側条：30kg】		60kg
元気つくし	35kg 【側条：30kg】			35～40kg 【側条：35kg】	
ヒヨクモチ	45kg 【側条：40kg】			55kg 【側条：50kg】	

育苗～移植

○育苗時の注意点

- ・太陽シートでの育苗中はシート表面に水が溜まらないよう注意する。また、苗が4～5cmになったら撤去する。
- ・育苗期間が20日以上になると、苗いもちの発生率が高くなるので注意する。
- ・生育不良や葉色が落ちた場合は、水10ℓに対して硫酸30gを溶かし、1箱当たり500mℓを目安に追肥する。
- ・苗立枯病・苗いもちの発生には十分注意する。

○移植時の注意点

- ・徒ら苗は、活着や初期生育が悪くなるので注意する。
- ・登熟期間の高温を避けるため、移植を適期に行う。
- 夢つくし 6月1日～5日頃
- 元気つくし 6月20日～25日頃
- ・移植後は**3～5日を目安に除草剤**を散布する。⇒P9
- ・補植用の置き苗は、いもち病の発生元となるので、移植後7～10日を目安に除去する。
- ・移植後はタニシの動きに注意する。ジャンボタニシ対策 ⇒P11

育苗時の病虫害防除剤一覧

使用時期	適用病害虫	薬剤名	使用倍率	使用量及び方法
			成分数	
種子消毒	シンガレンセンチュウ	スミチオン乳剤 (注)1	1000倍 ①	種子10kgの場合 水20ℓに対し スミチオン乳剤：20ml テクリドCフロアブル：100ml を混合し24時間浸漬
	ばか苗病・もみ枯細菌病 いもち病・苗立枯細菌病	テクリドCフロアブル	200倍 ①	
	いもち病	ベンレート水和剤 (注)2	500倍 ①	
育苗用土壌及び育苗期間中	苗立枯病・ムレ苗防止 根の生育促進	タチガレエースM液剤	500倍 ②	播種時又は発芽後に 500倍溶液を 0.5ℓ/箱灌注 ★(育苗期間中 1回可能)
		タチガレン液剤	500倍 ①	
箱施肥	【ウンカ対策】 いもち病・ウンカ類 イネミズゾウムシ・コブノメイガ ニカメイチュウ・イネツトムシ	防人箱粒剤	50g/箱 ③	播種時(覆土前)～移植当日
	【ウンカ対策】 いもち病・紋枯病・ウンカ類 イネミズゾウムシ・コブノメイガ ニカメイチュウ・イネツトムシ	フルスロツトル箱粒剤	50g/箱 ④	

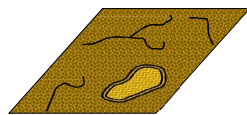
- (注)1 シンガレンセンチュウが一部目立ちます。確実な予防(温湯消毒もしくは、スミチオン乳剤使用)を実施しましょう。
- (注)2 使用時は少量の水でのり状に練り、規定水量と混合します。薬剤効果を保つため24時間浸漬後の種籾は十分に乾燥させましょう(最低でも2～3時間は風乾しましょう)。
- ウンカ類による被害が増えています。昨年発生が目立った圃場は、ゼクサロン剤(防人・フルスロツトル)の使用をお願いします。



移植後1か月程度を目安に、
茎数が一株当たり20本前後
確保したら中干しを実施する。



田んぼ表面が真っ白になって、足跡
もつかないような強い中干しは、漏
水や肥料の流亡・根傷みによる生
育への影響があるので行わない。



表面に軽くひびが入り、軽く足
跡が付くくらいになったら水を入
れる。



入水後は幼穂の状態を見て穂肥
の散布を行う。穂肥の量は葉色
や生育状況によって調整する。

水はしかり溜める！

中干し・穂肥

○中干しの効果

- ・過剰な分けつを抑え、無効分け
つの発生も抑える。【**収量UP**】
- ・根に酸素を送り、根の健全化を
図る。【**ガスの発生抑制、根腐
れ・倒伏防止**】
- ・土を一旦固めておくことで、収
穫期近くまで水を入れることが出
来る。【**機械作業、品質向上**】

○穂肥時期の管理

- ・出穂前20日頃(幼穂の長さが2mm程
度)が穂肥の時期。
- 夢つくし (6月上旬植え)
7月20日頃【出穂:8月10日頃】
- 元気つくし(6月中下旬植え)
7月末～8月頭【出穂:8月20日頃】
- ・穂肥時期の葉色は畔の若草色が目
安。葉色が濃い場合は、施肥量を
減らす。
- ・間断灌水を行う。

穂肥施肥基準				
肥料名	一般肥料(10a当たり)			
	きたきゅう 水稲用追肥	スーパ- 1-きくん3号	NK2号	ワジョット追肥 IAJ-T206
品種名	(10-3-8)	(10-3-8)		(20-0-16)
夢つくし	30kg	40kg		
元気つくし	30～35kg			15kg
ヒヨクモチ			[1回目] 20kg [2回目] 10kg	

台風・大雨対策について

○分けつ期～穂ばらみ期

- ・降雨前に用排水路のゴミを取り除く。
- ・降雨前は浅水管理に努める。(軟弱徒長の回避、スクミリングガイによる被害低減のため)
- ・冠水した場合は、早急に排水を図り冠水時間を短くする。(十分な排水ができない状況でも、葉の先端が水面から出るよう最大限の努力をする)
- ・排水後はできるだけ新しい酸素を含んだ用水と入れ替え、浅水管理とする。
- ・浸・冠水によりスクミリングガイのほ場への流入量が多くなり、被害が増加する場合があるため、登録の範囲内での薬剤防除などの対策を徹底する。
- ・雑草の発生が多い場合は、天候が安定して中期除草剤を散布する。
- ・浸・冠水後は稲体が軟弱となり、いもち病や白葉枯病、ウンカ類等の病害虫が発生しやすくなるため、十分注意する。

○出穂期～収穫期

- ・収穫期に近いほ場については、可能な限り台風前に収穫する。
- ・**穂がまだ未熟な時に台風・大雨があった際には**稲体からの異常蒸散を防ぐため、**深水管理**をする。
- ・**収穫期前に台風・大雨があった際には落水管理**とし、冠水・倒伏した際には可能な限り早急に落水・収穫を行う。
- ・倒伏すると薬剤効果が落ちるため、ウンカ等の防除は台風・大雨前に実施する。

出穂期・収穫

○出穂期の管理

- ・出穂期前後10日間は一灌水が必要
な時期、しっかり灌水を行う。
- ・斑点米防止のため、穂揃い期(圃
場全体で7～8割程度出穂したタイ
ミング)から7～10日後にカメムシ
防除を行う。⇒P9
- ・穂揃い期後は、間断灌水を行う。

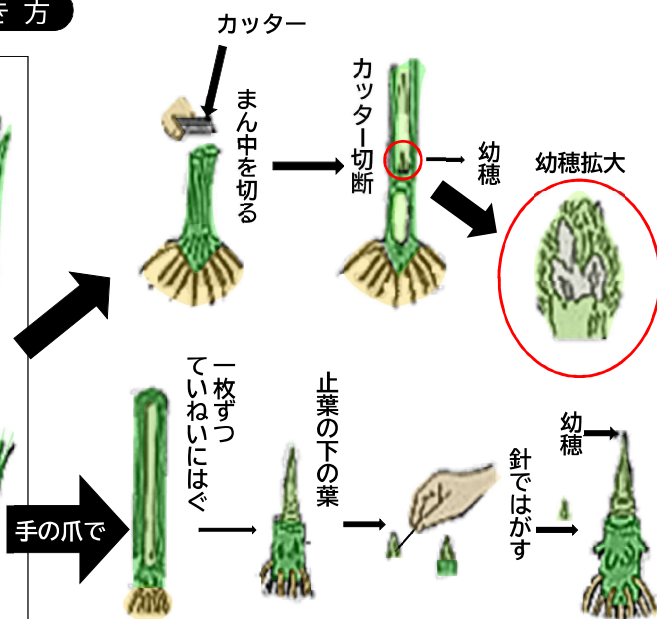
○収穫前の管理

- ・収穫予定日の7～10日前から落水
し、スムーズに刈取ができるよう
にする。
- ・収穫適期は穂の黄褐色の割合が
7割程度になったタイミング。
- ・刈遅れは品質低下(胴割れ・茶米)
を招くため、適期収穫を心がける。

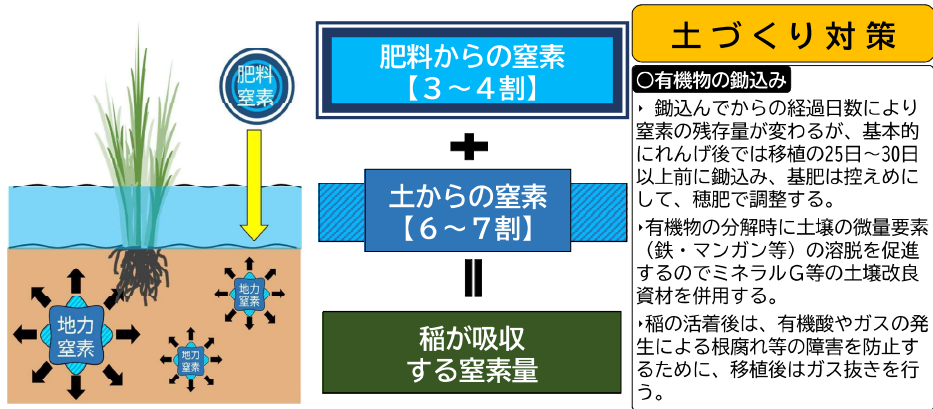
収穫期の目安		
品種名	夢つくし	元気つくし
田植日	6月5日	6月25日
出穂期	8月10日頃	8月20日頃
収穫期	9月8日頃	10月1日頃

幼穂の剥き方

株を握って上に引き、
平均的な株の、いちばん長い茎を根をつけ
たまま抜き取る。



MEMO



〇土づくりと地力の維持・増進…

昔から「**水稻は地力で作れ**」と言われるように、水稻は土壌からの地力窒素に大きく頼る作物で、水稻栽培において、冬場の土づくりは最も重要です。

地力とは、土壌に含まれる腐食(有機物)のことで、肥料を捕まえる力のことを言います。地力は何も作付けしなくても年々消耗するので、稲わらの鋤込みや、堆肥や土壤改良資材を活用し、地力の維持・増進に努めましょう。

資材名	土壤改良材(土づくり資材)									
ミネラルG	【効果・特徴】鉄分の補給により根を障害から守り、けい酸の吸収を良くする。 酸性土壌の補正及び鉄分補給。 【散布時期】作物の無い時期に散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分 (酸化鉄)	りん酸	ほう素 リブデン	腐食酸	マンガン
	0.1～0.2	17～20	1～2.5	43.0	40～45	13～18	1～2	微量		1.5～2
	【単位%】標準施肥量(10a) 140～200kg									
けい酸加里	【効果・特徴】けい酸の補給により稲を強くし、倒伏の軽減、病害虫抵抗性の向上、受光体制の向上を行う。 根張りが良くなり、肥料の吸収を助け丈夫な稲作りができる。 【散布時期】基肥散布時に40Kg、又は中干し前に20Kg散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン
	20	34	4					0.1		
	【単位%】標準施肥量(10a) 20～40kg									
とれ太郎	【効果・特徴】作物へのけい酸吸収利用率が高く、施肥量や施肥労力の軽減に役立つ。 根張りを良くし倒伏の軽減や、酸性土壌の補正効果も。 【散布時期】荒起こし前、又は水田耕起時に散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン
		30	12	40			6			
	【単位%】標準施肥量(10a) 60kg									
アヅミン	【特徴・効果】堆肥の投入できない圃場の代替品。 稲わらと同時に鋤きこむことで地力増進を行う。 【散布時期】稲刈り後散布(堆肥の代わりになります)									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン
			3						50	
	【単位%】標準施肥量(10a) 40kg									

資材名	土壤改良材(土づくり資材)									
ミネリッチ	【特徴・効果】ミネラルGとようりん・けい酸加里を配合した省力タイプ けい酸は茎葉を丈夫にし、鉄・マンガンは根を健全に維持し活力をつけ、倒伏防止や病害虫に対する抵抗性を高める。 【散布時期】作物の無い時期に散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分 (酸化鉄)	りん酸	ほう素 リブデン	腐食酸	マンガン
	2.5	21	6.5	47	31～38	8～12	6	微量		2
	【単位%】標準施肥量(10a) 100kg									
リンスター30	【特徴・効果】リンスターのpHはほぼ中性でECも低く、土壌pH・ECを変えずにリン酸・苦土が補給できる。 【散布時期】基肥時期に散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン
			8				30			
	【単位%】標準施肥量(10a) 20～30kg									
シリカサポート1号	【特徴・効果】老朽化した水田で不足している鉄(Fe)や、りん酸、苦土を含む土づくり資材。 少ない施肥量でもけい酸の効果が期待でき、けい酸によって茎や葉が丈夫になることで、倒伏軽減や受光体勢、登熟効果を高める効果が期待できる。 【散布時期】基肥散布時に80Kg、又は中干し前に40Kg散布。									
	加里	けい酸	苦土	アルカリ分	石灰	鉄分	りん酸	ほう素	腐食酸	マンガン
		20	1	32			3			
	【単位%】標準施肥量(10a) 40～80kg									

※成分表はパッケージの表示順とは異なるためご注意ください

〇土壤改良材を効果的に活用するには、土壤診断を行いましょう。

水稻栽培に必要な要素一覧		
成分	効果・注意点	
必須三要素	窒素(N)	水稻の生育や、籾の充実に影響する。 過剰に施用すると過繁茂となり、倒伏や病害虫の発生を助長する。
	りん酸(P)	稲の細胞分裂に関わり、生育の盛んな分げつ期に多く必要とされる。 不足すると、草丈・葉面積・莖数が不足し、出穂成熟期が遅れる。
	カリウム(K)	タンパク質の合成に必要で、窒素が多いほど必要量も多くなる。 最高分げつ期と幼穂形成初期に欠乏しやすいので、穂肥で調整する。
生育に必要な微量元素	けい酸(Si)	根から吸収され、稲全体が丈夫になる。倒伏防止や、病害虫抵抗性の向上・高温障害の軽減が見込める。
	マンガン(Mn)	光合成を助け、生育の促進に作用する。 不足すると生育不良・秋落ち(登熟期以降の生育不良)の要因となる。
	鉄(Fe)	有機物の分解で発生する硫化水素を無害化し、根腐れを防止する。 不足すると生育不良・秋落ちの要因となる。
	苦土(Mg)	光合成に必要な葉緑素の構成成分であり、不足すると葉の黄化により生育不良やいもち病などの病害を誘発する。

※上記の要素については多すぎても少なすぎても生育に影響があります。
土壤診断の活用や栽培基準を参考に、施肥設計を行い適切に施用しましょう。

農業使用において、特に注意すべきこと

農業使用について

出穂期～開花期の農薬全般の散布を避けましょう。

全国的に農薬使用が原因と疑われる「みつばち」の死亡の報告が増加しています。

そのため、「みつばち」に影響が考えられる農薬(下記)の使用にあたっては、「みつばち」への危被害防止のため、以下に注意し農薬の散布を行いましょう。

- ・ 稲の出穂・開花時に「みつばち」が花粉を収集するため、活動が活発になる午前中の薬剤散布や、開花直前から開花後2週間は殺虫剤の散布を避ける。
- ・ 粒剤等の飛散しにくい剤型を使用する。
- ・ 無人ヘリ等で防除を行う場合は事前にスケジュールをJ Aへ届ける。(J Aより関係機関へ報告)

※みつばちへの影響が考えられる殺虫剤の例

スタークル・アルバリン・トレボン・キラップ・エクシード等

薬剤の倍率計算の仕方

薬剤希釈倍率表

$$\text{必要な薬量 (ml・g)} = \frac{\text{希釈水量 (l)}}{\text{希釈倍率 (倍)}} \times 1000$$

例：トレボンEW(1000倍希釈) 薬液を300l作る場合。

$$300(\text{希釈水量}) \div 1000(\text{倍率}) = 300\text{ml}(\text{必要な薬量})$$

		希釈倍率表			
		希釈倍率(倍)			
希釈水量 (l)		500倍	1000倍	2000倍	3000倍
	100l	200 (ml・g)	100 (ml・g)	50 (ml・g)	33 (ml・g)
	150l	300 (ml・g)	150 (ml・g)	75 (ml・g)	50 (ml・g)
	200l	400 (ml・g)	200 (ml・g)	100 (ml・g)	66 (ml・g)
	500l	1,000 (ml・g)	500 (ml・g)	250 (ml・g)	166 (ml・g)

		希釈倍率表(ヘリ防除)		
		希釈倍率(倍)		
希釈水量 (l)		8倍	16倍	30倍
	8l	1,000 (ml・g)	500 (ml・g)	267 (ml・g)
	10l	1,250 (ml・g)	625 (ml・g)	333 (ml・g)
	16l	2,000 (ml・g)	1,000 (ml・g)	533 (ml・g)
	32l	4,000 (ml・g)	2,000 (ml・g)	1,067 (ml・g)

※ダブルカットバリダフロアブルなどの少量散布可能な薬剤【希釈倍率300倍、10a当たり25l散布】については、**希釈水量25lに対して、薬剤83ml**で作成。

ラベル表示(使用基準)の遵守義務

遵守義務違反の場合は懲役3年以下か罰金100万以下又は併科

農業に求められる 4つの安全性

1. 使用者や周辺住民に対する安全性
2. 消費者(収穫物)に対する安全性
3. 農作物に対する安全性
4. 環境に対する安全性

遵守義務

- 食用作物・飼料作物への農薬使用の遵守義務
 - ・ 適用作物 ⇒ 誤用注意
 - ・ 使用量又は濃度
 - ・ 使用時期
 - ・ 総使用回数

- 農薬使用計画を毎年度農林水産大臣に提出が必要なもの
 - ・ くん蒸農薬使用者
 - ・ 航空散布の農薬使用者
 - ・ ゴルフ場の農薬使用者

努力義務

- 散布履歴の記帳
(散布日、散布場所、作物、農薬の種類・濃度/量)
- 農薬の貯蔵上の注意事項、使用上の注意事項の遵守
- 住宅地等での農薬飛散の防止と必要な処置を講じること
- 水田使用農薬の止水期間(7日間遵守)
- クロルピクリン含有農薬(土壌くん蒸剤)使用時の揮散防止と被覆期間の遵守
- 土壌くん蒸剤の揮散防止と被覆期間の遵守
- 有効期限切れ農薬の不使用

※廃プラスチックの回収及び廃農薬・期限切れ農薬等の回収を、年に一回実施しています。

近年、農薬等の保管状況調査(ファームレンジャー)巡回の際、使用済みの空き容器を回収日まで保管せず、個人で廃棄している方が目立ちます。

廃プラスチックや廃農薬は、一般のゴミで出すことは禁止されています。(農家=事業者)

回収時期については、廃プラスチック11月・廃農薬12月に実施しておりますので、回収日に持参ください。(回収日については、J Aだよりにて周知)

農薬の空容器については、12月の廃農薬回収日に出すようお願い致します。

MEMO

除 草 剤 一 覧

時 期 対 象		薬 剤 名	使 用 量	使用可能 回数	使用推奨時期 (移植後)	薬剤効果 範囲		
				成分数				
初期	雑草の少ないほ場	ピラクロンフロアブル ※(注1)	500mℓ／10a	1 回	移植直後	ノビエ 1.5葉		
				①				
初中期 発処理剤	抵抗性雑草対策	漏水田	アピログロウMX1キログ粒剤 ※	1kg／10a	1 回	早 期 5～10日	ノビエ 3.0葉	
					④	普通期 3～ 7日		
		一 般 田	ガンガン1キログ粒剤 ※	1kg／10a	1 回	早 期 5～10日	ノビエ 3.0葉	
					②	普通期 3～ 7日		
			ホタルイ コナギ アゼナ	サラブレッドKAIフロアブル ※ / ジャンボ	【フ】 500mℓ/10a 【ジャ】 400 g/10a	1 回	早 期 5～10日	ノビエ 2.5葉
						③	普通期 3～ 7日	
		ウィニングランジャンボ	500g／10a	1 回	早 期 5～10日	ノビエ 2.5葉		
				③	普通期 3～ 7日			
生育 中期	生育中期の イネ科雑草対策	クリンチャー1キログ粒剤 【湛水散布】	①1kg／10a ②1.5kg／10a	2回以内	①移植後7～20日	ノビエ ①4.0葉 ②5.0葉		
				①	②移植後25～35日 (収穫30日前まで)			
	生育中期の 広葉雑草対策	バサグラン粒剤 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	3～4kg／10a	1 回	移植後15～55日 (収穫60日前まで)			
				①				
	生育中期のイネ科 ・広葉雑草対策	レプラス1キログ粒剤 / ジャンボ 【湛水散布】	【粒】 1kg/10a 【ジャ】 400 g/10a	1 回	移植後14～35日 (収穫60日前まで)	ノビエ 4.0葉		
				④				
生育 後期	生育後期のイネ科対策 (アゼンバリ除草可能)	クリンチャーEW 【落水散布】 【展着剤を加用使用】	水25～100％ に薬剤100mℓ	2回以内	移植後20～40日 (収穫30日前まで)	ノビエ 6.0葉		
				①				
	広葉雑草対策	バサグラン液剤(注1) 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	水70～100％ に薬剤500～700mℓ	2回以内	移植後15～55日 (収穫50日前まで)			
				①				
	生育後期のイネ科 ・広葉雑草対策 【クサネム対策】	アレイルSC 【湛水散布又は落水散布】	水50～100％ に薬剤500mℓ	1 回	移植後25日～40日 (収穫45日前まで)	ノビエ 5.0葉		
				②				
	生育後期のイネ科 ・広葉雑草対策	クリンチャーバスメ液剤(注2) 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	水70～100％ に薬剤1000mℓ	2回以内	移植後15～40日 (収穫50日前まで)	ノビエ 5.0葉		
②								
減農薬栽培の生育後期 イネ科・広葉雑草対策	ワイドアタックSC 【落水散布又はごく浅く湛水して散布】	水100％ に薬剤100mℓ	2回以内	移植後20～40日 (収穫30日前まで)	ノビエ 6.0葉			
			①					

注1 雑草が多い圃場での初期剤・初中期一発処理剤の併用について

○ 雑草が多い圃場では、移植直後のピラクロンフロアブルと初中期一発処理剤を併用することで、より効果的に雑草処理をすることができます。

注2 バサグラン液剤・クリンチャーバスメ液剤について

- ① 高温条件では葉害を生じることがあるので、散布後高温が予想される場合は夕方などに散布しましょう。
- ② 散布する前に落水状態にして水の出入りを止め、散布後少なくとも3日間はそのままの状態を保ちましょう。
- ③ 散布後の降雨で薬剤の効果が落ちる場合があるので、晴天が続く時に散布しましょう。

注3 水田用農薬に係る止水期間の徹底について

○ 農薬の流出を防止するために初中期一発処理剤の使用に当たっては、1週間程度の止水期間を徹底しましょう。

注4 雑草の除草剤処理について

○ 代掻き～移植～除草剤散布までの間隔が空くと、適期散布でも雑草の生育が進み、確実な効果が発揮されない場合がありますので注意願います。

※ 移植同時処理剤について

○ ピラクロンフロアブル・アピログロウMX1キロ粒剤・ガンガン1キロ粒剤・サラブレッドKAIフロアブルについては同時処理が可能です。

<湛水散布について>

○ 湛水とは水をためておくことで、湛水散布の薬剤については水田に水をためた状態で散布しましょう。

本 田 防 除 剤 一 覧													
散布 時期	体系	薬 剤 名	処理量 倍 率 (10a)	使用 可能時期	使用 回数	※成分数	対象病害虫						
							いもち病	紋枯病	ツマノロヨコバイ	ウンカ類	コブノメイガ	ニカメイチュウ	カメムシ類
いもち・紋枯・ウンカ防除 (出穂直前散布)	粉剤	ブラシントレバリダ粉剤DL	3～4 kg	収穫14日前まで	2回以内	④ (③)	○	○	○	○			△
		ノンプラス粉剤DL(補正)	3～4 kg	収穫7日前まで	2回以内	②	○						
	液剤	ダブルカットバリダフロアブル	1,000倍	穂揃い期まで	2回以内	③ (①)	○	○					
		トレボンEW	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	①			○	○	○		△
		ノンプラスフロアブル(補正)	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	②	○						
	粒剤	ゴウケツモンスター粒剤	3 kg	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで	1回以内	③	○	○	○	○			○
		コラトップジャンボP(補正) ※1	500 ～650 g	出穂30～5日前まで	2回以内	①	○						
カメムシ・ウンカ防除 (穂揃い期後10日後頃散布)	粉剤	アルバリン粉剤DL	3 kg	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○		○	○
		キラップ粉剤DL	3～4 kg	収穫14日前まで	2回以内	①				○			○
		エクシード粉剤DL	3 kg	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○			○
	液剤	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 (※3,000倍)	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○			○
		エミリアフロアブル	1,000倍	収穫 7日前まで	2回以内	①			○	○			○
		エクシードフロアブル	2,000倍	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○			○
		キラップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	①				○			○
	粒剤	アルバリン粒剤	3 kg	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○		○	○
		スタークル豆つぶ	250 g	収穫 7日前まで	3回以内	①			○	○			○
タニシ 対策	ジャンボたにくん	1～2 kg	収穫60日前まで	2回以内	①							○	
	スクミノン	1～4 kg	収穫60日前まで	2回以内	①							○	

●成分数の()内は、エコ農産物(減農薬・減化学)栽培を行った場合の成分カウント数です。

●コブノメイガ対策剤(トレボン粉剤DL、パダンSG水溶剤、パダントレボン粒剤L)については別途購買店舗での個別購入をお願いします。

※パダンSG水溶剤、パダントレボン粒剤Lについては劇物指定薬剤のため、購入時印鑑が必要です。

<コラトップジャンボPの使用時期 ※1>

葉いもちに対しては初発20日前～初発時。穂いもちに対しては、出穂30日前～5日前までとなります。

<本田防除について>

- ①適期防除を徹底し、いもち病・ウンカ・カメムシの被害軽減に努めて下さい。
- ②農業散布時は、近隣の農産物への飛散(ドリフト)への注意に心掛けて下さい。

<粒剤体系について>

粉剤や液剤の使用が難しい場合や、住宅街で防除が難しい場合は粒剤が有効です。

粒剤は、粉剤や液剤のように、直接病害虫にかけ効果があるのではなく、水に溶け浸透移行により効果が発揮されるため、使用する場合は重点防除時期より一週間程度早い散布となりますので、ご注意ください。

体系処理としては、①箱施肥薬+②いもち・紋枯剤(出穂前)+③カメムシ剤(出穂期)の組み合わせで栽培することが、より効果的です。

(例)①フルスロツトル(箱剤) + ②ゴウケツモンスター粒剤 + ③スタークル豆つぶ

水稻雑草チェックシート

雑草が大きくなる前に初中期一発剤での処理と中後期の早期防除を心がけよう。

1. ～3. のチェック項目から、イラストをひとつずつ選択し、ポイントの合計から使用に適した薬剤を確認しましょう。
※初中期一発除草剤で取りこぼしてしまった雑草について、中後期除草剤の使用を検討する際の参考にしてください。

1. 草の生え方はどんな風か

※草が大きくなっている場合は、より近い形態のものを選んでください。



・丸みを帯びた葉と、同じような形の小さな芽が出ている。

イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt



・太めのしっかりした茎と、茎から直接葉が出ている。

イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt



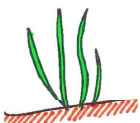
・丸みを帯びた葉と、小さな葉がたくさん付いた枝が出ている。

イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt



・地面を這うように茎が伸び、葉の付け根の部分から根が生えている。

イネ科：4 Pt
広葉：1 Pt



・地面から針状の葉がまっすぐ伸びている。

イネ科：2 Pt
広葉：3 Pt



・少し厚みのある葉が交互に生えている。

イネ科：3 Pt
広葉：3 Pt



・ほ場の水稻とよく似た生え方をしている。

イネ科：5 Pt
広葉：1 Pt

2. 根の生え方はどんな風か



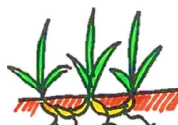
・ひげ状の根と、発達して太くなった塊茎が混在している。

イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt



・ひげ状の根がしっかり張っている。

イネ科：3 Pt
広葉：3 Pt



・地面の下に発達した塊茎があり、塊茎の節々からひげ状の根と草が生えている。

イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

3. 葉の形はどんな風か



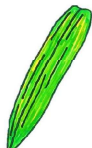
・全体的に丸みを帯び、幅の広い葉で、中心の葉脈から網目状に葉脈が広がっている。

イネ科：1 Pt
広葉：5 Pt



・三角形や円柱状の厚みのある葉で、茎との区別がつかない。

イネ科：1 Pt
広葉：4 Pt

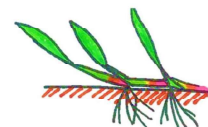


・細身で葉の幅が一定になっており、中心の葉脈と並行して葉脈が走っている。

イネ科：4 Pt
広葉：2 Pt

ポイント計算の仕方

【例】



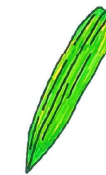
イネ科：4 Pt
広葉：1 Pt

+



イネ科：3 Pt
広葉：3 Pt

+



イネ科：4 Pt
広葉：2 Pt

=

イネ科：11 Pt
広葉：6 Pt

イネ科の可能性が高い！

1. ～3. で選択したイネ科Pt 広葉Ptの合計を計算し、どの薬剤を選択するのが効果的か確認しましょう。

Ptの合計値	判定	薬剤名 詳細⇒P9
イネ科Ptが9～12 かつ広葉Ptが6～8	・イネ科雑草の可能性が高いです。 ・イネ科雑草に効果の高い薬剤を選択しましょう。	⇒ ・クリンチャー1 ^ホ 粒剤 ・クリンチャーEW
イネ科Ptが3～5 かつ広葉Ptが9～15	・広葉雑草の可能性が高いです。 ・広葉雑草に効果の高い薬剤を選択しましょう。	⇒ ・バサグラン粒剤 ・バサグラン液剤
上記以外もしくは雑草多発時	・いろいろな雑草が混在している可能性があります。 ・イネ科・広葉両方に効果のある剤を選択しましょう。	⇒ ・レブラス1 ^ホ 粒剤 ・アレイルSC ⇒ ・クリンチャーバスME液剤 ・ワイドアタックSC

※あくまでも参考ですので、判断がつかない場合は農協までご相談願います。

雑草の名称例



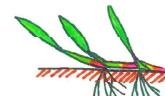
○アゼナ
○オモダカなど…



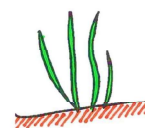
○ツクサなど…



○クサネムなど…



○キシウスズメノヒエ
○アシカなど…



○クログワイ
○マツバイなど…



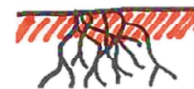
○タマガヤツリ
○コウキヤガラなど…



○タイヌビエ
○サヤマカサなど…



○クログワイ
○シズイなど…



○ツクサ
○タイヌビエなど…



○コウキヤガラ
○ミズガヤツリなど…

水稲病害虫防除ポイント

◎物理的防除【選択】

- ・生貝の捕殺（移植3週間後まで定期的に捕殺）
野菜くず、少し硬めのタケノコを畦畔沿いに置き誘因すると食害が軽減されるとともに、捕殺しやすい。
- ・卵塊の圧殺
ピンク色の時は水に落とすだけでよい、白くなり始めたら圧殺する。
- ・侵入防止
水口に侵入防止網（網目が9mm程度）を取り付け、水路からの新たな貝の侵入を防止する。網は水口に密着させず30cm程度離して設置するとごみの詰まりが軽減される。

◎耕種的防除(水管理)【必須】

水深をできるだけ浅く保つことでタニシの移動を抑制し、食害を軽減することができる。理想は水深1cm以下にする。
ただし、除草剤を使用する場合は除草効果を安定させるために水を溜める必要があるため、除草剤の処理時～4日間は4cm程度水を溜める。

◎農業による防除【選択】

上記対策では対応できずタニシの被害が多い場合は、薬剤防除が必要となる。農業は移植後すぐ使用すること。
畔回りを深めに代かきしてタニシを集め、スポット的に薬剤散布することで、省力・省コストで防除できる。



▲食害による欠株



▲スクミリンゴガイ



▲卵塊

刈取後～移植前のスクミリンゴガイ対策

◎冬季の耕うん【必須】

移植後大きな被害の原因となる越冬貝対策としては、極寒期（1月～2月）には場を耕起し、土中の越冬貝を寒気にさらすこと。気温は-3℃くらいが効果的。

トラクターでの耕起時に、ロータリ回転数を上げて細かく砕土することが有効。また、用水路の越冬貝対策として、水路等の清掃を行うことも有効。土中に潜る深さは6cm未満が最も多い。

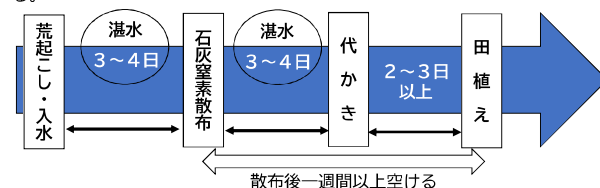
◎石灰窒素による防除（田植え前）【選択】

※無機窒素を投入するため、環境保全型農業に取組まれている方は実施不可。

荒起こし後3cm程度湛水し、3～4日放置してから石灰窒素を20～30kg/10aむらなく散布してさらに3～4日放置する。その後代かきを行い、2～3日おいてから田植えを行う。

※石灰窒素は魚毒性があるため、散布後石灰窒素を含んだ水が水路に流れ込まないように注意する。

※散布することで4～6kg/10aの無機窒素を圃場に入れることになるので、基肥は使用せずリンスター・けい酸加里等の土改材で不足成分を補う必要がある。



タニシの注意点

・人体に有害な寄生虫がいる場合があるので、素手では扱わないようにする。触ってしまった場合はよく手を洗う。

スクミリンゴガイ① (ジャンボタニシ)

◎防除のポイント

- ・水が深いところに集まって食害するので、代かきは田面が均平になるように作業する。
- ・移植直後は浅水管理を行う。
- ・移植後3週間が最も被害を受ける期間となるので、圃場の状況を定期的に確認する。
- ・数が多い場合は、野菜くずやトラップを活用し、食害軽減に努める。

◎防除薬剤

・殺貝薬剤(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ジャンボたにくん	1～2 kg/10a	収穫60日前まで
スクミノン	1～4 kg/10a	収穫60日前まで

・食害防止剤(例)

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
スクミンバイト3	2～4 kg/10a	発生時【減農薬栽培】

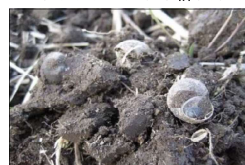
スクミリンゴガイ② (ジャンボタニシ)

◎防除のポイント

- ・スクミリンゴガイ対策で重要なのは、『地域単位』で行うこと。
- ・暖冬傾向にあるときは、越冬率が高くなり、耕うん後に死ぬまでの期間が長くなるので注意する。
- ・生息域の拡大を防ぐため、トラクター等をほ場間で移動する際は泥をしっかりと落とす。



▲トラクターによる耕うん



▲耕うんにより地表に現れたスクミリンゴガイ

タニシ対策めかゼリー・タニシトラップの作り方！



めかゼリー

タニシが大好きなめかを使った誘引餌です。田植え後使用することで、苗の食害を防いだり、スクミノン・ジャンボたにくんといったタニシ駆除剤との相乗効果が期待できます。

材料(約10a分)

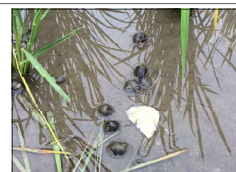
1. めか・・・ おおさじ2～3杯
2. 寒天ゼリーの元
・・・ 50グラム
3. 水・・・ 約160cc

つくりかた

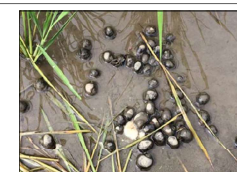
1. 沸騰させた水に 寒天ゼリーの元 50グラム を溶かして、ゼリー液を作りましょう。（冷えたとき固めに作るのがポイント。）
2. 作ったゼリー液に、 めか おおさじ2～3杯 を溶かしましょ。う。（容器の底にたまるのでよく混ぜてください。）
3. 容器に移して粗熱をとったら、冷蔵庫で冷やしましょう。
4. 固まったら完成です。

つかいかた

大体四等分くらいにして、水田に落とし込みましょう。水が1cm程度張ってある圃場であれば、1～2時間で集まり始めます。捕獲して駆除したり、周辺にタニシの駆除剤を散布して防除してください。



半日後・・・



タニシトラップ

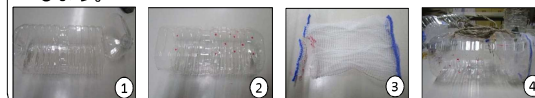
めかゼリーを用いた簡易トラップです。集まったタニシを簡単に持ち出せるので、タニシ駆除剤が使えない減農薬栽培をされている方にお勧めです。

材料(1個)

1. ペットボトル(1.5ℓ)
・・・ 1本
2. 三角コーナネット(ネットタイプ)
・・・ 1枚
3. 輪ゴム・・・ 1つ

つくりかた

1. ペットボトルの飲み口をカッターナイフで切り落とします。
2. 上面・側面に穴を数ヶ所あけます。（底面にはあけない。）
3. 三角コーナネットの下部分をハサミで切り落とします。
4. 三角コーナネットをペットボトルの口にかぶせ、輪ゴムでとめたら完成です。必要に応じて回収用のひも等を付けましょう。



つかいかた

めかゼリーや野菜くずなどを入れ、水田に設置しましょう。（何個か設置すると効果的。）タニシが中に入っているのを確認したら、回収して中にいるタニシを駆除しましょう。



駆除数39!



▲リゾプス属菌

▲ムコール属菌

▲リゾクニア属菌



▲トリコデルマ属菌

▲フザリウム属菌

▲ビシウム属菌

特徴と注意点

- ・水稲育苗期に発生する病気、土壌伝染や出芽～緑化期の温度・湿度の差が大きいとき等発生の原因はさまざま。
- ・育苗箱の中で円形に生育が抑制されたり、枯れこんだりするのが特徴。また、病徴が進むと芯葉が容易に引き抜けるようになる。

苗立枯病

○防除のポイント

- ・昨年発生した場合は育苗箱をしっかりと洗浄・消毒する。
- ・種子更新・種子消毒を徹底する。
- ・極端な厚播きをしない。
- ・出芽～生育期の温度較差が無いよう管理を行う。
- ・発生した場合は、速やかに健全な苗箱と別管理をする。

○防除薬剤

- ・育苗箱の消毒(例)

薬剤名	倍率	散布方法
イチバン	500 ～1000倍	瞬時浸漬 又は散布

- ・種子消毒剤(例) ⇒ P 5

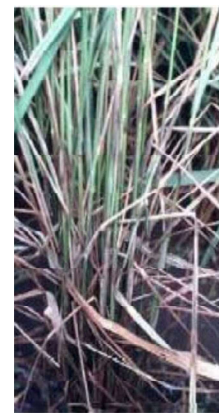
薬剤名	倍率	散布方法
テクリードC フロアブル	200倍	24時間 浸漬

- ・育苗中の防除(例) ⇒ P 5

薬剤名	倍率	散布方法
ペンレート 水和剤	500 ～1000倍	1箱に500ml 灌注処理
タチガレ エースM液剤	500 ～1000倍	1箱に500ml 灌注処理



▲停滞型の病斑



▲進行型の病斑

特徴と注意点

- ・葉鞘や葉、ひどいときには穂等まで侵す病気で、稲体の水分上昇を妨げ倒伏しやすくなるため減収につながる。
- ・高温多湿な条件を好むため、夏場は発生に注意する。
- ・菌は土壤中で越冬するため、前年発生していた場合は翌年も注意が必要。

紋枯病

○防除のポイント

- ・箱剤処理を行い、初期の感染を予防する。
- ・施肥基準を守り、窒素過多にならないように注意する。
- ・出穂期前～出穂期の適期防除を徹底し、病斑の進行がみられる場合は補正防除を行う。

○防除薬剤

- ・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 5

薬剤名	使用量	使用方法
フルストル 箱粒剤	50 g / 箱	均一に 散布する

- ・本田防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブランチバリア 粉剤DL	3～4kg /10a	収穫14日前 まで
ダブールカ バリアフロアブル	1000倍	穂揃期まで
ゴウケンスター 粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日 前まで



▲苗いもち



▲葉いもち
(ずり込み症状)

種子消毒・
箱剤処理で
初期の予防

病斑は見つけ
次第即防除！

穂首いもちは
出穂前防除で
予防！



▲進行型病斑

▲停滞型病斑



▲穂首いもち

特徴と注意点

- ・育苗期～成熟期にかけて広く発生する。
- ・夏季の低温多雨・日照不足により発生しやすくなるので気象条件には十分注意する。
- ・感染が早いほど罹病株が少数でも収量への影響が大きいので、早めの防除が重要。

いもち病

○防除のポイント

- ・種子消毒を徹底し、苗いもちを出さない。補植苗は早めに除去する。
- ・窒素過多で葉色が濃いと発病しやすいので、施肥量には十分注意する。
- ・葉いもちに対する薬剤防除は、初期程効果が高いので早めの防除を行う。

○防除薬剤

- ・種子消毒剤(例) ⇒ P 5

薬剤名	倍率	使用方法
テクリードC フロアブル	200倍	24時間浸漬
ペンレート 水和剤	500 ～1000倍	12～24時間 浸漬

- ・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 5

薬剤名	使用量	使用方法
防入箱粒剤		
フルストル 箱粒剤	50 g / 箱	均一に 散布する

- ・本田防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブランチバリア 粉剤DL	3～4kg /10a	収穫14日前 まで
ダブールカ バリアフロアブル	1000倍	穂揃期まで
ゴウケンスター 粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで



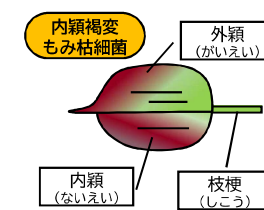
▲内穎褐変病



▲もみ枯細菌病



▲穂いもち



内穎・もしくは籾全体が褐変する。
枝梗は変色しない場合が多い。

穂いもち

籾の一部、もしくは籾全体が灰褐色
に変色する。
枝梗も変色する場合が多い。

特徴と注意点

- ・出穂期～開花期の高温・多湿条件で多発する。
- ・発生時の防除は薬剤の効果に十分には得られないため、予防的な防除を行うことが望ましい。

内穎褐変病 もみ枯細菌病

○防除のポイント

- ・施肥量が多いと発生しやすい傾向があるため、肥料のやりすぎ、特に追肥の多用は避ける。
- ・種子消毒・箱施薬・本田防除の体系的な防除が最も防除効果が高い。
- ・多発時はブランチフロアブル・ノンプラスフロアブルでも効果が十分に発揮できないため、出穂期の防除を徹底する。

○防除薬剤

- ・種子消毒剤(例) ⇒ P 5

薬剤名	倍率	使用方法
テクリードC フロアブル	200倍	24時間浸漬

- ・移植前の防除【箱施薬】(例) ⇒ P 9

薬剤名	使用量	使用方法
防入箱粒剤		
フルストル 箱粒剤 (移植当日のみ)	50 g / 箱	均一に 散布する

- ・本田防除(例)

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブランチフロアブル	1000倍	出穂期
ノンプラスフロアブル		
ノンプラス粉剤DL	4kg/10a	



▲ミナミアオカメムシ



▲イネクロカメムシと食害痕



▲ホハリカメムシ



▲クメハリカメムシ



▲吸害による斑点米

特徴と注意点

- ・水稻出穂期に稲穂を加害し、斑点米・充実不良の原因となる。
- ・斑点米が0.1%混入すると1等格付けにはならない。
- ・穂ではなく、葉を加害する種類もある。(イネクロカメムシ)

カメムシ類

○防除のポイント

- ・畦畔の雑草から本田へ侵入してくるので、出穂2週間前までに除草作業を行う。
- ・薬剤防除は、穂揃期後7～10日後に実施するのが効果的。(穂が傾き始めたくらいが目安)

○防除薬剤

・本田基幹防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブラントレバ® リグ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで
ゴウツモンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで

・本田補正防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
アルバリリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
アルバリリン顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで
アルバリリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで



▲トビイロウンカ(長翅)



▲トビイロウンカ(短翅)



▲セジロウンカ



▲ヒメトビウンカ



▲トビイロウンカ(幼虫)

特徴と注意点

- ・梅雨前線に乗って海外から数回にわたって飛来、世代を経るごとに爆発的に増加する。(トビイロ・セジロ)
- ・秋季に高密度となって稲を吸汁し枯死・倒伏させる「坪枯れ」が発生する。

ウンカ類 ①

○防除のポイント

- ・ゼクサロン(ピラサルト) 剤配合の箱施薬(防人・フルソットル)での防除が効果的。
- ・発生初期の防除が重要なので、基幹防除(夢:7月末、元気:8月中旬)は必ず行う。
- ・感受性が低下している薬剤(アブロード等)の使用は避ける。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒ P 5

薬剤名	使用量	使用方法
防人箱粒剤	50g/箱	均一に散布する
フルソットル箱粒剤		

・本田基幹防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
ブラントレバ® リグ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで
ゴウツモンスター粒剤	3kg/10a	出穂5日前まで 但し収穫45日前まで

イネカメムシの発生に注意しましょう!

○昨年から発生がみられ、令和4年産では被害が拡大しており、今後も発生が予想されます。防除は既存の薬剤(トレボン・アルバリリン)で対応可能ですが、**防除の時期が既存のカメムシ類と異なる(出穂期～)**ため、既存のカメムシ類と合わせた防除が困難です。**吸汁による斑点米で等級・品質が低下**するうえ、実の充実前から加害するため、**不稔(充実不良)や充実不足となり収量減にもつながります。**

回覧の営農情報や、水稻講習会等で発生状況を周知しますので、適期防除を逃さないようにしましょう。



▲イネカメムシ



▲イネカメムシによる被害粒
基部に被害が集中している。
色彩選別機により除去しにくい。



不稔穂



▲穂揃期14日後



▲出穂直後の稲を加害するイネカメムシ(丸印)



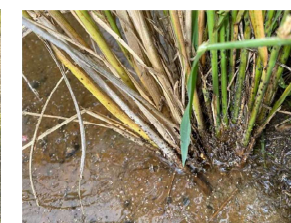
▲出穂期直後

- 出穂直後から発生。
- 他のカメムシは畦畔の雑草で増殖中。
- この時期にひどく吸汁されると**不稔穂**に…。

- 実が充実し、穂が垂れ下がってきてから加害。
- 吸汁により斑点米が発生。
- 圃場から稲がなくなると移動し、熟期が遅い品種ほど被害が大きくなる。

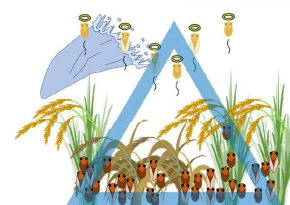


・トビイロウンカによる坪枯れ

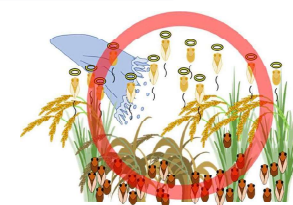


・坪枯れ発生時の株元

坪枯れ発生時の薬剤防除のコツ



・上から振りかけるように散布すると、葉や穂に邪魔されて株元のウンカにかけにくい。



・下に向かって散布すると、株元のウンカにまで薬剤がかかる。

特徴と注意点

- ・坪枯れ発生時は、早めの防除・刈取を心がけ、被害の拡大防止に努める。
- ・**収穫前の薬剤防除は収穫前日数・使用回数に気を付ける。**

ウンカ類 ②

○防除のポイント

- ・粉剤・液剤は効果が早いですが、粒剤は効果が出るまで時間がかかるため防除適期の5～7日前の散布を心がける。
- ・坪枯れ・稲の黄化が発生し、薬剤散布をする際は、できる限り株元にかかるように散布する。(左図)
- ・薬剤のかかり方、ウンカの飛来状況によっては複数回薬剤の散布が必要な場合があるので、圃場の状況には十分注意する。

○防除薬剤

・補正防除(例) ⇒ P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
アルバリリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
エクシード粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで
アルバリリン顆粒水溶剤	3000倍	収穫7日前まで
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで
アルバリリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで



▲コブノメイガ(成虫)

成虫は直接水稻に加害することはないが、雌は1匹当たり150~200個の卵を産む。薬剤による防除効果は薄い。

幼虫は葉をつづり合わせ、葉をかすり状に食害する。幼虫の間に薬剤防除を行うのが効果的。



▲コブノメイガ(幼虫) ▲幼虫による食害

特徴と注意点

- ・ウンカと同様に梅雨前線に乗ってやってくる害虫、主に幼虫が葉を食害する。
- ・出穂期前後の発生が収量に大きく影響するため、多発時は特に飛来後第2世代幼虫の防除が重要。

コブノメイガ

○防除のポイント

- ・箱施薬での防除が基本。
- ・成虫は葉色が濃い稲に好んで産卵するので、遅植えや窒素過多な施肥は避ける。
- ・多発時は本田防除剤による防除を行う。(成虫発生最盛期から7~10日後が目安)
- ・出穂期の上位3葉を加害されると減収につながるため、予防的な防除が必要。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒P 5

薬剤名	使用量	使用方法
防入箱粒剤		
フルソットル箱粒剤	50g/箱	均一に散布する

・本田防除(例) ⇒P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
トレボン粉剤DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで
バダンSG水溶剤	1500倍	収穫21日前まで

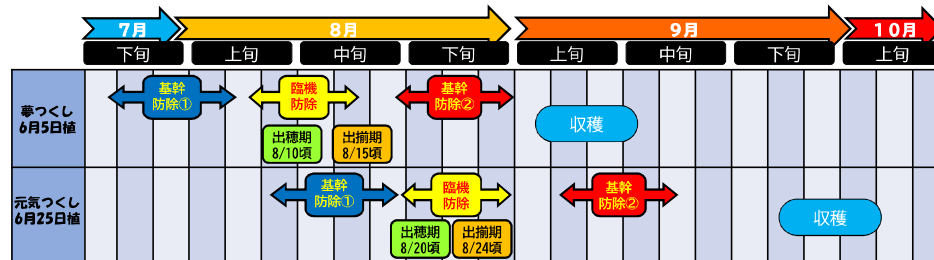
※バダンSG水溶剤は劇物指定のため、購入時印鑑が必要。

基幹防除を行いましょう！

○箱施薬剤(フルソットル等)の普及により、早期のいもち病・紋枯病の発生は少なくなりましたが、**生育後半の感染被害は依然として発生がみられています。**

また、令和4年産の傾向として、カメムシによる斑点米が例年に比べても多く、栽培履歴の検証でも、**基幹防除や臨機防除の有無で等級や品質に大きく差が付いていました。**

病虫害防除については、**収量・品質に直結するものになります。**回覧の営農情報や水稻講習会等の情報を基に、適期防除に努めましょう。



臨機防除 …イネカメムシを含む斑点米カメムシ等を対象とした防除。出穂期~穂前期頃が目安。

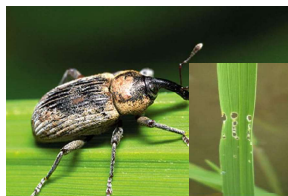
基幹防除1 …いもち病・紋枯病等を対象とした防除。出穂前頃が目安。

基幹防除2 …ウンカ類・斑点米カメムシを対象とした防除。出穂期14日後頃が目安。

※必要に応じて補正防除を行いましょう。



▲ツマグロヨコバイ
稲の吸汁、ウイルス病の媒介
(黄化萎縮病・萎縮病)



▲イネミズゾウムシ
葉の食害
(風傷みしやすくなる)



▲ニカメイチュウ
葉鞘の食害、茎の食害
(心枯れ・穂の出すくみ)



▲イネツトムシ
葉の食害、苞の作成
(生育抑制・充実不良)

特徴と注意点

- ・水稻生育時に発生する害虫たち、現在は箱施薬による防除が一般化し、収量に直接影響するような被害は発生しにくいですが、多発時は別途防除が必要。

水 稻 害 虫

○防除のポイント

- ・箱施薬での防除が効果的。
- ・窒素過多で軟弱な稲を好んで加害するので、過剰な施肥は避ける。
- ・多発時は本田防除剤による防除を行う。
- ・薬剤によっては効果のある生育ステージに制限があるので圃場の状況と、薬剤の適用をしっかりと確認する。

○防除薬剤

・移植前の防除【箱施薬】(例)⇒P 5

薬剤名	使用量	使用方法
防入箱粒剤		
フルソットル箱粒剤	50g/箱	均一に散布する

・本田防除(例) ⇒P 9

薬剤名	倍率・使用量	使用時期
トレボン粉剤DL	4kg/10a	収穫7日前まで
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで
トレボン粒剤	3kg/10a	収穫21日前まで

※薬剤によっては適用がないものもあるので注意

MEMO

関係機関連絡先

遠賀営農経済センター

遠賀営農一課 TEL : 093-282-5678

FAX : 093-282-7440

遠賀購買店舗 TEL : 093-282-3070

若松営農経済センター

若松営農 TEL : 093-741-2266

FAX : 093-741-2201

若松購買店舗 TEL : 093-741-1311

八幡営農経済センター

八幡営農 TEL : 093-618-0130

FAX : 093-618-0275

八幡購買店舗 TEL : 093-618-0105

東部営農経済センター

西中営農 TEL : 093-451-9210

FAX : 093-451-1035

西中購買店舗 TEL : 093-451-1040

曽根営農(購買) TEL : 093-471-0631

FAX : 093-471-7433

門司購買店舗 TEL : 093-481-1077

北九州普及指導センター

TEL : 093-601-8855

営農情報

※緊急を要する『病害虫発生状況・対策、台風情報』等の営農・防除情報については以下のホームページのご活用をお願いします。

J A北九ホームページ

<https://www.ja-kitakyu.or.jp/>

J A北九

検索

J A北九で検索！

J A北九



LINE 公式アカウント

- ・営農情報
- ・病害虫情報
- ・稲作情報、稲作ごよみ
- ・経済情報

などなど、ホームページなどに掲載している情報をいち早く配信いたします！

福岡県病害虫防除所ホームページ

<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

情報HPへの
QRコード⇒



JA北九HP



福岡県病害虫
防除所HP



農薬登録情報
提供システムHP



農薬の適正使用
について



農薬の使用回数
について